研究課題名	心臓手術患者における Mean Arterial Pressure/Vasoactive Inotropic Score（MAP/VIS）比と術後急性腎障害との関連
研究の意義・目的	心臓の手術を受けた後には、腎臓の働きが一時的に悪くなることがあります。これを心臓手術関連急性腎障害といいます。この合併症が起こると、人工透析が必要になったり、集中治療室（ICU）や病院で過ごす期間が長くなったりすることがあり、その後の腎臓の機能や健康状態にも影響する可能性があります。 　このような腎障害は、手術中や手術後に血圧が低下したり、心臓の働きが弱くなったりして、腎臓への血流が十分に保てなくなることが原因の一つと考えられています。通常、手術後の循環状態は血圧をもとに評価しますが、同じ血圧であっても、血圧を保つために多くの昇圧薬（血圧を上げる薬）が必要な方と、ほとんど必要ない方では、循環状態が異なる可能性があります。そのため、血圧と昇圧薬の使用量を組み合わせた新しい指標（ Mean Arterial Pressure/Vasoactive Inotropic Score 比）が、患者さんの循環状態をより正確に評価できる可能性があると考えられています。これまで、この指標は重症患者さんにおいて腎障害や死亡との関連が報告されていますが、心臓手術を受けた患者さんで同じような関連があるかは十分にわかっていません。 　本研究では、心臓手術後の血圧や昇圧薬の使用状況と、術後の腎機能との関係を調べます。この研究により、術後早い段階で腎障害を起こしやすい患者さんを見つけることができれば、より適切な循環管理や腎機能の観察につなげられる可能性があり、今後の治療の改善に役立つことが期待されます。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～　2030 年１２月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2022 年４月～2026 年３月に大阪公立大学医学部附属病院において心臓手術を受けられた方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報：年齢、性別、身長、体重、既往歴、併存疾患、ASA-PS 分類、 血液検査結果：術前血液検査所見、術後血液検査所見、術後血液ガス分析所見 画像検査所見：心エコー図検査所見 電子麻酔記録：術式、麻酔時間、手術時間、人工心肺時間、大動脈遮断時間、術中尿量、輸液量、輸血量 電子カルテ：ICU 入室後 1h/6h/24h 時点の昇圧薬の使用量、ICU 入室後の血圧、時間尿量、輸液量、輸血量、腎代替療法の導入の有無、ICU 滞在日数、死亡
試料・情報を利用する者の範囲および管理について責任を有する者の研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科麻酔科学のみで行います。 【研究責任者】末廣　浩一
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。

	この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。
本研究の 利益相反	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院　麻酔科 担当者氏名：末廣　浩一 電話番号：０６―６６４５―２１８６